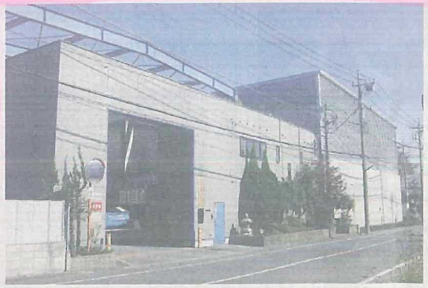
関係者など約60人が参加。同社土山社長は「太陽光パネルのリサイクルは2010年から取り組み始め、多くの技術革新を経て今回の竣工を迎えた。官民の協力に改めて御礼申し上げたい」とあいさつ。来賓からは北九州市の梅本和秀副市長が「太陽光パネルの大量廃棄時代への備えは喫緊の課題。両社の真摯な取り組みに敬意を表するとともに、処理への貢献を大いに期待している」と祝辞を述べた。

総合整備
自社発電で有価フラフ製造
瑞穂工場にPVパネル設置


瑞穂工場

産業廃棄物・一般廃棄物の収集運搬や中間処理などを手掛ける総合整備（本社・東京、松島修社長、☎03・5347・2910）はこのたび、廃プラスチック類などの破砕・フラフ製造などを行う中間処理施設「瑞穂工場」（東京都瑞穂町）の屋根に太陽光発電パネル（PVパネル）216枚を設置し、稼働を開始した。今回の自社発電開始により、同工場で使用する電力の30～40%を賄えるという。

松島社長は、「クリーンなエネルギーで作った高品質のフラフを有価の代替燃料としてセメント工場に売却する新たなビジネスモデル。マニフェストE票を発行でき、急激な電気代の値上げにも対応できる。来年には蓄電設備も導入し、電力自給率をさらに向上させたい」と述べている。

同社は瑞穂町内に瑞穂工場の他、同様にフラフを製造する大規模な中間処理施設「瑞穂第二工場」、積替え保管を行う「瑞穂積替え保管施設」「瑞穂第三工場」を備え、東京都あきる野市内にスプリングマットレス、廃蛍光ランプ類を処理する「あきる野工場」を持つ。

「瑞穂工場」には破砕設備（1軸式破砕機＋2軸式破砕機）、切断設備、圧縮梱包設備などを備えている。破砕設備の処理能力は廃プラ類が1日当たり4・8㌧、混合廃棄物が同4・8㌧、ゴムくずが同12・5㌧、ガラス・コンクリート・陶磁器くずが同83・5㌧などとなっている。電気を多く使うのは破砕設備で、その新たな電源としてPVパネルを設置した。1時間当たり最大で100㌔㍗を発電できる。導入にあたっては、東京都の「地産地消型再エネ増強プロジェクト」の補助金を受けた。

一方、より大規模な「瑞穂第二工場」ではすでに工場屋根上にPVパネルを設置しており、電力会社に売電をしている。

PVパネルの積極的な導入で、「自前で電力を賄って、使用電力が比較的少ないフラフを省CO_2型の代替燃料として供給する」（松島社長）という方向性を究めていく。

誠実に——
—産業廃棄物焼却処理 250T/D—
HTRST 栃木ハイトラスト株式会社
〒321-4367 栃木県真岡市鬼怒ヶ丘18-3 ☎0285(83)3966

圧縮梱包されたフラフ

塗装とアルミ剥離▽プラスチック容器包装の圧縮梱包▽難燃剤入りスタイロフォームの溶融▽PETボトルキャップの選別・洗浄・粉砕▽事業系飲料容器の選別とPETボトルなどの圧縮――などさまざまな事業を行っている。廃棄CD・DVD製品のケースと紙、記録媒体の手選別などについては、NPO法人「ここのわ」を通じて50人の障がい者が業務を行っている。

前田社長は、「プラスチック資源循環法への対応を意図した。多様なマテリアルリサイクルから代替燃料製造（熱回収）までを一貫で担えるようになりたい」と述べている。

笹岡工業所
木質灰で高性能盛土材に
福井で専用プラント完成

廃ガラスリサイクル二次製品に特化したコンクリートメーカーの笹岡工業所（福井県あわら市、笹岡太久磨社長、☎0776・73・1131）は昨年末、木質バイオマス発電の灰のリサイクル処理が専用の新プラントを青ノ木工場で完成した。

同社は、2019年4月に福井県リサイクル製品認定制度の認定を受けた「SKソイル」シリーズの製造を開始。木質バイオマス発電所から排出される灰を受け入れ、ふるい分けや破砕、水分調整などを行い、土壌改良材「SKソイル」や、盛土材「SKソイル」を製造している。

焼却灰リサイクル製品のSKソイルは、締め固まりやすく、強度が高い高性能盛土材。2020